



宿南地区水害対策促進期成同盟会総会 開催される

6月25日（火）19時30分よりふれあい倶楽部ホールで 委員27名中25名出席（うち委任状出席4名）でした。この総会には来賓として、県議会議員 藤田孝夫様をはじめ、養父土木事務所長、同河川砂防第1課長、養父市長、養父市議会議員、養父市危機管理監、まち整備部長、土地利用未来課長、の8名の出席を賜りました。議長の山下利博様（町区）の進行のもと、議案第1号～議案第5号を審議、全て承認されました。総会に続き、行政報告を養父土木事務所より総合治水の取り組みの説明を受けました。続いて出前講座で養父市危機管理監より今年1月1日に発生した能登半島地震の現在の状況や、被災時に養父市が珠洲市にランドリー車支援をしていた時（1月24日頃）の被災当時のビデオを見せていただきました。今もまだ現地の状況に変化がなく改めて地震の大きさや実態を知ることができました。



奉仕作業実施しました



6月16日（日）ふれあい隊・花水木の会の皆さん37名で、ふれあい倶楽部周辺の草刈り、草取り、剪定、花壇の花植え等を行っていただきました。花壇には夏の花のマリーゴールド、ベゴニアが植えられ、広場や周辺は草もすっきり綺麗になり、見違えるほどになりました。会の皆さまお世話になりありがとうございました。



タウンミーティング開催される



7月1日（月）ふれあい倶楽部ホールで開催されました。地区民16人参加で「未来の養父市を語るタウンミーティング」と題して市長より説明を受けました。続いて「社会的処方について」説明を受け社会的孤立を解消、健康になるまちづくり、人と人地域と人をつなぐリンクワーカーの役割の話を聞きました。宿南がモデル地区になればよいとの意見もありました。その後の意見交換で空き家・ふれあい号の件、小学校のあり方についての説明も受けました。予定時間を超過するほど活発な意見交換ができました。



身近で見られる植物 ③⑧

アメリカオニアザミ 〈キク科〉

私が初めて見たのは10年ほど前、その頃の植物図鑑には載っていない、最近入ってきた外来のアザミ



です。日当たりの良い道端にどんどん広がっています。鋭く堅いトゲが葉にも茎にもあり、素手で触ると非常に危険な植物です。ちょっと見、花はきれいですが、綿毛となってど

んどん勢力
範囲を広げ



ていくので早く駆除しておきたい植物です。駆除は根こそぎしないと、すぐに再生します。



災害を語り継ぐために写真のご協力をお願いします

宿南地区水害対策促進期成同盟会

平成16年に発生した台風23号被災時の写真・ビデオなどがありましたらご提供いただけないでしょうか。それ以外の災害時でも構いません。ご一報いただけましたらお伺いしますので宜しくお願いします。

喫茶ひまわり特別メニュー



7月22日(月) 9:30~11:30

7月25日(木) 13:30~15:30

手作り白玉だんごを提供します。是非来て下さい

お知らせ

7月21日(日) そうあんの里 夏のつどい(楽しい音楽のつどい) ひまわりカフェ オープン

7月23日(月) ~ 8月23日(金) 夏休みラジオ体操期間 開催日は地区により異なります

8月13日(火) ~ 15日(木) 自治協 盆休み 14日(水) 盆踊り大会(別紙 チラシ配布)



草庵先生紹介

日記 65



旧暦の正月に
福沢諭吉著
「改暦弁」を
読む草庵

宮崎和夫さん作

池田草庵の明治5(1872)年12月の日記はない。この月の20日余り前、突然大政官布告が出される。「来る12月3日を明治6(1873)年1月1日と定める」というものだ。暦が大政官布告で一方向的に変わって、11月の次には12月でなく、明治6年1月になった。今までの暦(旧暦)に代わり新しい太陽暦を採用するということだ。

草庵にはとまどいもあっただろうが、布告に従い明治5年11月の次に「旧暦十二月三日改 明治癸酉第一月」と日記に書いている。それから明治6年の日記を書き始めている。

「早起き、休講。朝片山(亡長兄宅)に行き、順介宅(亡次兄宅)に寄ってから帰院。昼小酌、酔って横になって休む。(中略)。村人時々来る」(明治6年1月1日)

急にやって来た正月だが、普段の正月と変わらない過ごし方をしている。しかし、旧暦の感覚を捨てきれない草庵でもあった。早起き。今日は旧暦の元旦なり。休講。片山に行き、池口家に寄って帰院。昼小酌、酔ってしばらく横になって休む。今日は、福沢其の著すところの「改暦弁」を1, 2度読む。

(後略)」(同1月29日)

あたらしい太陽暦になったが、旧暦の元旦に当たる日にはやはり正月を意識して過ごしている。そして、この日の読書は「改暦弁」だ。これは福沢諭吉が明治6年1月に出版したもの。慶応義塾大学出版会ホームページによると、この本は新しい太陽暦には賛成だが政府の性急なやり方に批判的な福沢が、国民にわかりやすく改暦の意義を説明したものだ。草庵は、儒学の本だけでなくこのような本にも目を通していている。明治2年のことだが、同じ福沢が欧米の見聞をまとめた本「西洋事情」を読んだことも日記に書いている。長年慣れ親しんできた旧暦での生活は、簡単に切り替えられるものではなかっただろう。草庵はその後も旧暦を意識していることがしばしばある。例えば、草庵の誕生日は7月23日だが、「早起き、休講。今日は私の正当な誕生日なり」(同年9月14日)と書いている。新しい世の中の動きにも従いながら、しかし今までの生活様式、感覚を大事にしている草庵の姿がある。

池田草庵先生に学ぶ会